特集 災害と防災

気候変動により、大雨などの自然災害が被害規模を大きくしながら毎年のように各地で起こっています。今回の特集では、どこに住んでいても身近に起こりうる災害に備え、いのちを守るために今、私たちができることを考えます。

広島と千葉からは、ここ数年で起こった被災の現状とその後に続く行政への働きかけを含めた地域でのとりくみ、兵庫と東京からは阪神・淡路大震災や東日本大震災などの教訓からすすめられている人と人とがつながりあう防災の試みが語られています。

災害が起きると障害のある人をとりまく困難さがより浮き彫りになります。自分の住む地域で防災にとりくむきっかけとしてともに学び合いましょう。

映画「星に語りて～ Starry Sky ～」より ©きょうされん

特別インタビュー

震災の事実を伝える

映画「星に語りて～ Starry Sky ～」がつなぐもの

映画監督

松本 動さん

まつもと ゆるぐ／大林宣彦監督の「花筐/HANAGATAMI」では監督補佐を務め、「星に語りて～ Starry Sky ～」などでメガホンを執る。第 37 回日本映画復興賞で日本映画復興奨励賞を受賞。

衝撃を受けた事実

東日本大震災での障害のある人と支援者の活動を描いた映画「星に語りて～ Starry Sky ～」は、きょうされん40周年記念映画としてつくられました。監督の思いから始まった作品と思われる方もいるかと思うのですが、僕は恥ずかしながら障害のある方たちにまったく関心がなかった人間なんですよ。

はじめて山本おさむさんの脚本を読んだときには、衝撃を受けました。災害時に避難所にも行けず取り残された障害者の人たちの困難…こんな大変なことが起こっていたのかと。これがフィクションではなく実際に起こった、その事実にまず驚きました。関心がなかった人間でこそびっくりしたというか。

だからこそ、僕みたいな人たちにもっと知ってもらわなければいけない、大勢の人に観てもらえる映画になるようがんばらなければという思いをもちました。僕自身がこの映画から一番学んでいるかもしれません。

被災地での上映会

昨年に映画が公開されてから、今も全国で上映運動が続いています。各地の上映会を訪れたなかで一番印象的というか不安だったのは、岩手県陸前高田市での上映会でした。映画化の過程でも震災をどう描くのか、いろんな意見があるなかでつくられた作品です。その映画を実際に被災された方が観に来られます。もしかしたら観てもらえないのかな、と不安もあったのですが上映会には多くの地元の方が来てくれました。

上映が終わった後に地元のみなさんや映画のモデルになった方たちから「この映画をつくってくれてありがとうございました」と声をかけてもらいました。その言葉には本当に救われましたよね。「あぁ、よかったんだ」と。もしかしたら、この映画を観たことでつらくなり、言葉にもできずにいた方もおられるとは思うのですが。

もう一つの映画のモデルとなった福島県南相馬市での上映はまだ叶っていません。新型コロナの影響で先延ばしになっているのですが、やはり南相馬でも観ていただくことで、この映画は完成するという気はします。被災地での上映会は特別です。

映画にできること

この映画にかかわるまでは、被災地に行ったことはなかったんですよ。しっかり支援をする覚悟なく被災地には入れないという思いがあり、行けていなかったんです。この映画の話がきたことで「いいかげん、お前は行かなければいけないんだ」と言われていると思い、覚悟して被災地に入りました。

私は直接なにか支援をしているわけではないのですが、この映画をつくって少しでも多くの人に観てもらえるような活動をしていくことが、間接的な支援になると思っています。

またいつどこで災害が起こるかもしれない、新型コロナの問題もある意味、震災に近いものがある訳じゃないですか。震災に限らず災害時にはどういう行動をとる必要があるのかなど、この映画を通して伝えていけることがあると思います。

今回、新型コロナに関連した会見やニュースを見ていると、現場に手話通訳者の方がいてもはじめの頃は映像には映っていなかったですよね。かつての僕だったらそれを違和感なく見ているんですよ。でも「手話の人が映っていないじゃないか」って思うようになったんです。

僕がこの映画にかかわってこれからやっていくべきと感じているのは、障害のある人をフューチャーするだけではなく、あたりまえに出演者として出てくるようなドラマや映画をつくっていくことです。たとえば車いすの人などが登場人物の一人として普段からドラマや映画に出てくれれば、それが自然なことだと理解し、意識も変わってきます。僕ら映像業界の人間もそんな試みをすることで変わっていくはずなんです。まだまだちっちゃな一歩ですけど率先してやっていきたいと思っています。

新型コロナ禍で上映会は中止や延期になっている状況ですが、全国の上映をめざす人たちとの新しいとりくみやつながりも出てきています。これからもみなさんと一緒に希望をもちながら拡げていきたいと思います。